

精神科における処方調査

統合失調症患者の薬物療法に関する 処方実態調査(2012年)

～ 全国調査から ～ その2

○医療法人 ときわ病院 志田 雅彦

精神科臨床薬学(PCP)研究会

宇野 準二、加藤 剛、黒沢 雅広、谷藤 弘淳
高橋 結花、長谷川 毅、中川 将人、本多 智子、
宮原 佳希、梅田 賢太、北川 航平、三輪 高市
柴田 木綿、天正 雅美、野田 幸裕、吉尾 隆

目 的

- 精神科臨床薬学研究会（以下PCP研究会）会員の所属する施設に入院中の統合失調症患者について処方調査を行い、「抗精神病薬」、「抗パーキンソン薬」、「抗不安・睡眠薬」、「気分安定薬」の投与量、投与剤数など、薬物療法の実態を把握することを目的とする。
- 本報告（その2）では、
 - **デポ剤の使用状況**について報告する。

方 法

● 対象

- PCP研究会会員の所属する全国154施設に入院中の統合失調症患者21,798人

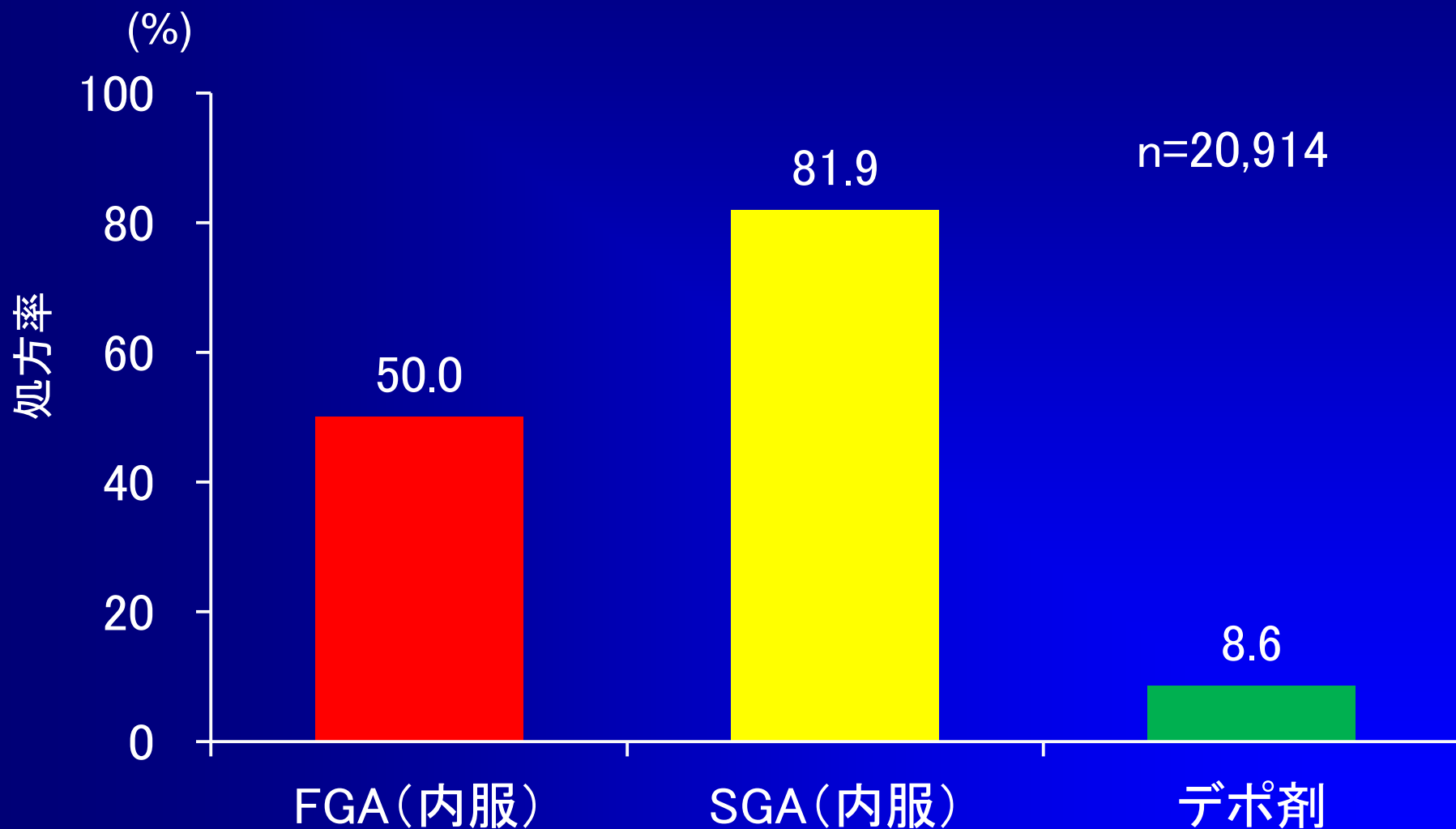
● 調査日

- 2012年 10月 31日

● 調査項目

- 年齢、性別、身長、体重、罹病期間、1日当りの服薬回数、服薬指導(実施・未実施)の有無、抗精神病薬(含デポ剤)、抗パーキンソン薬、抗不安・睡眠薬、気分安定薬の投与剤数と投与量、心電図異常の有無

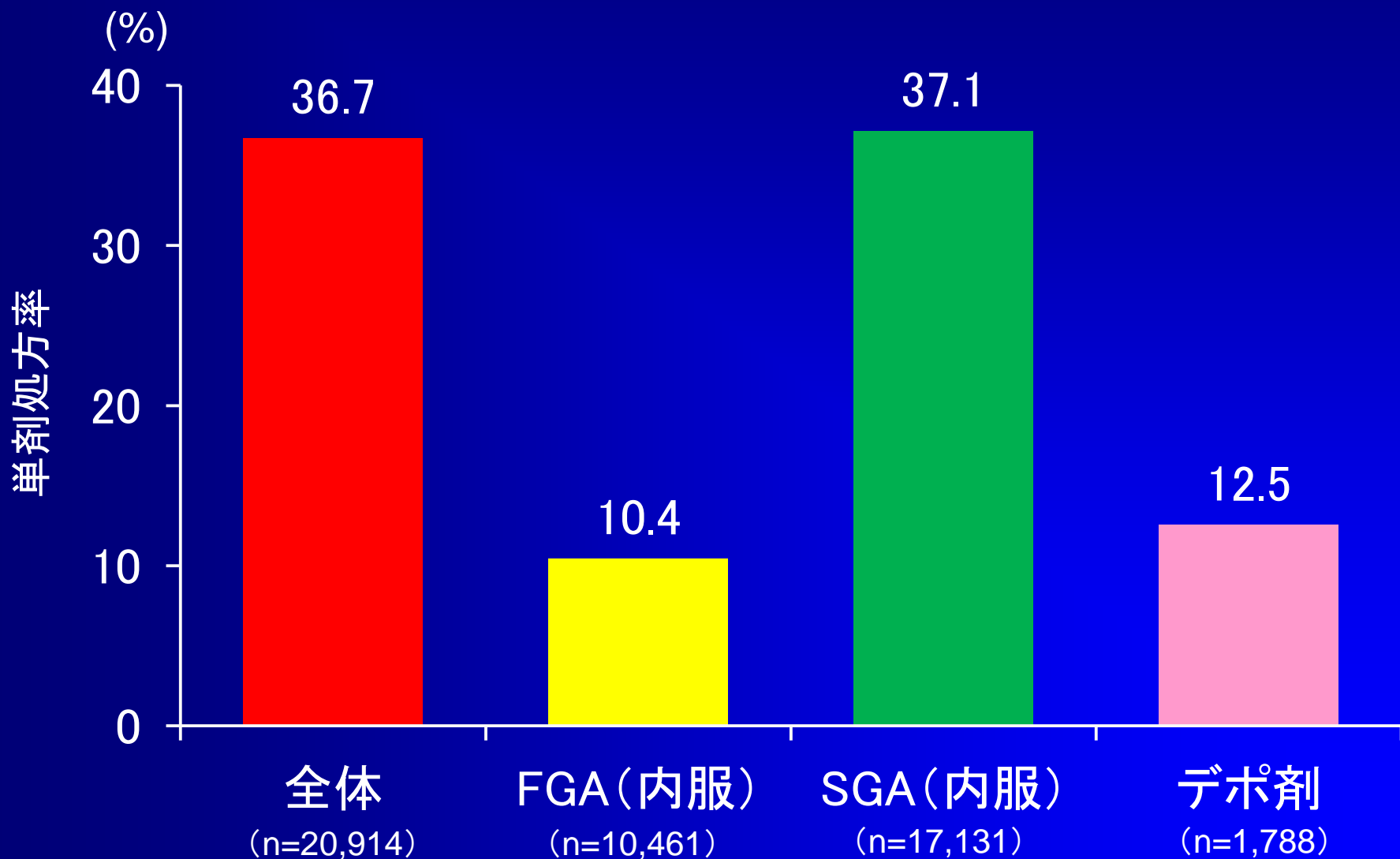
抗精神病薬の処方率



FGA = 第一世代抗精神病薬

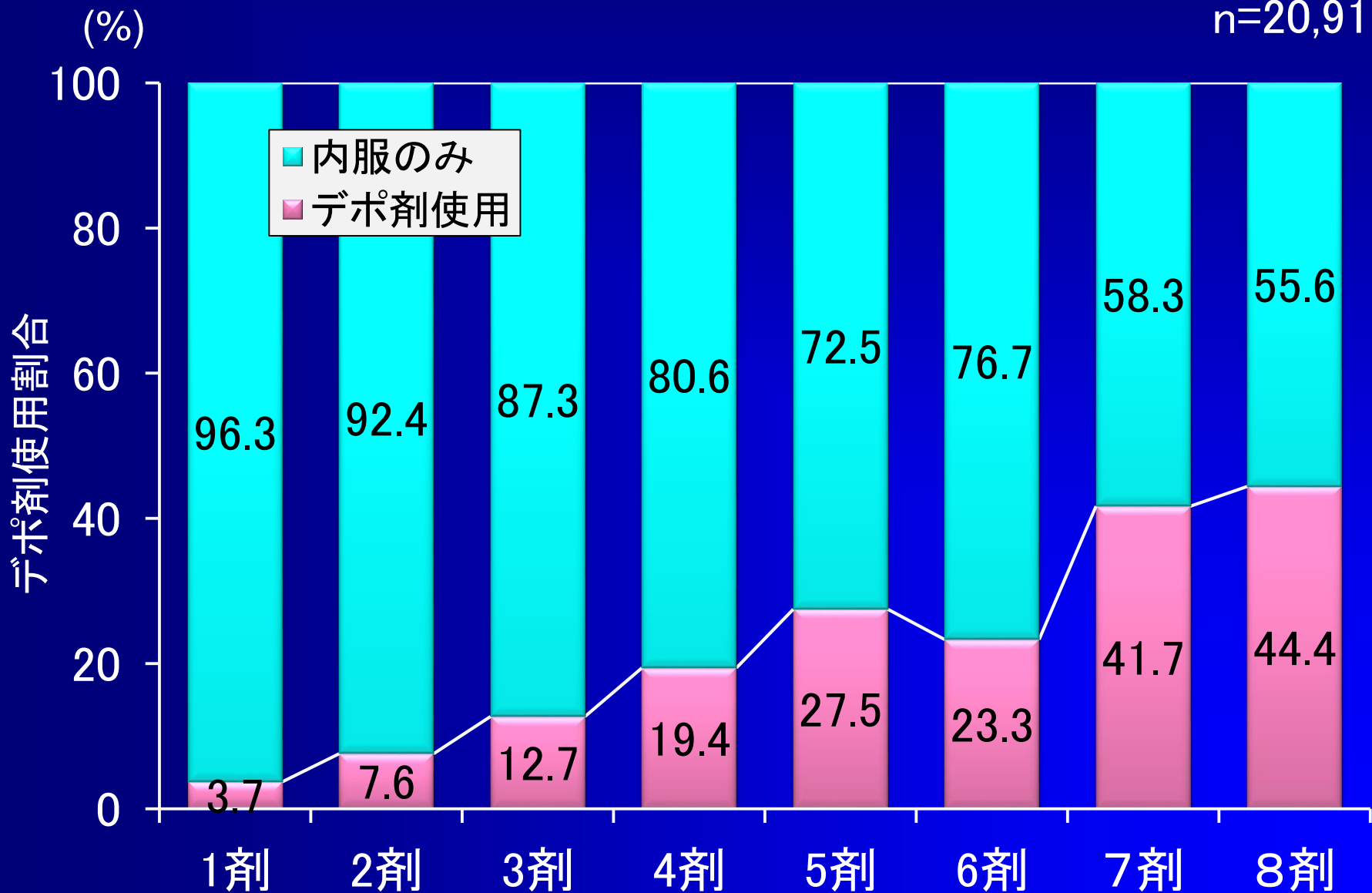
SGA = 第二世代抗精神病薬

抗精神病薬の単剤処方率

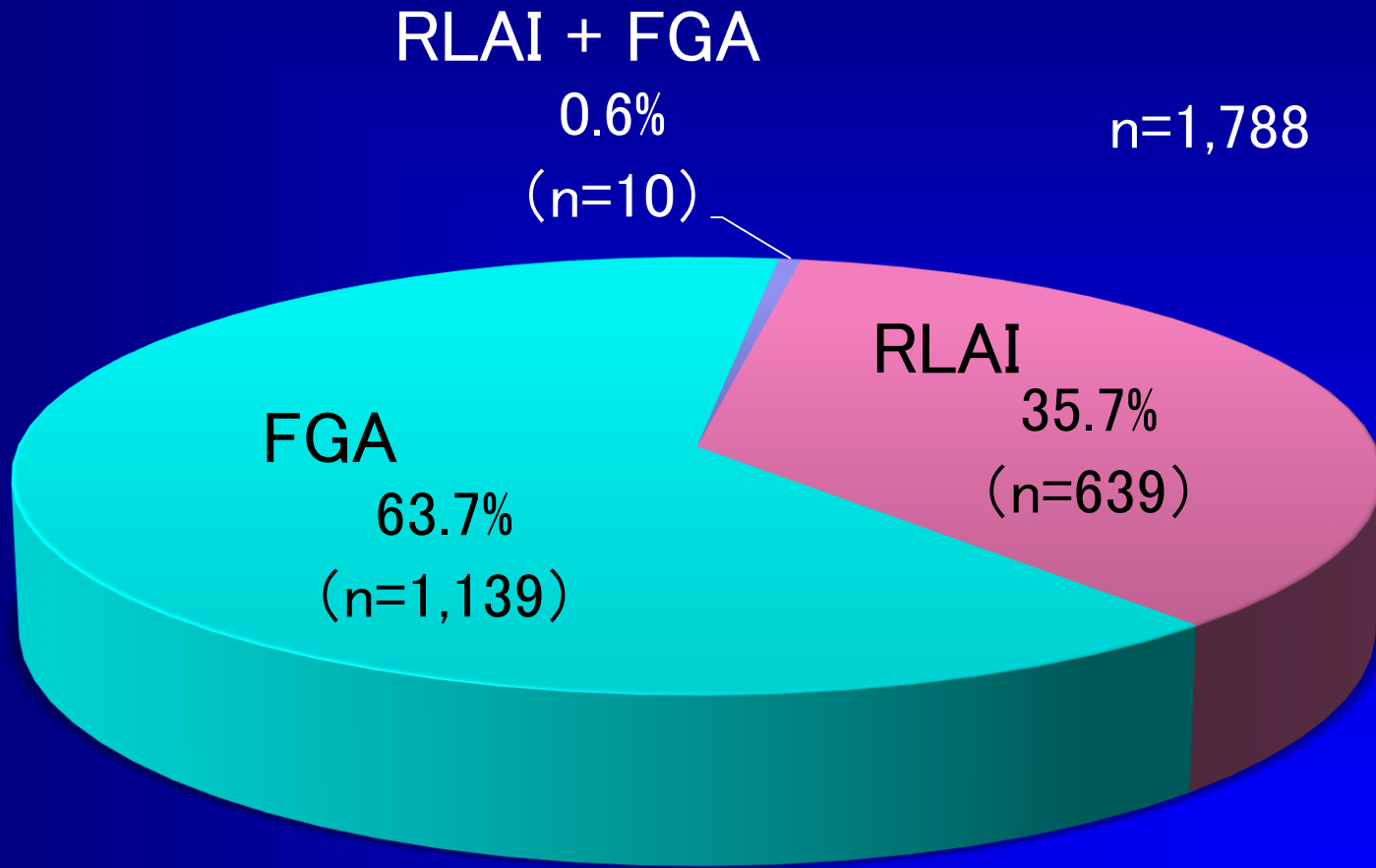


抗精神病薬剤数別のデポ剤使用割合

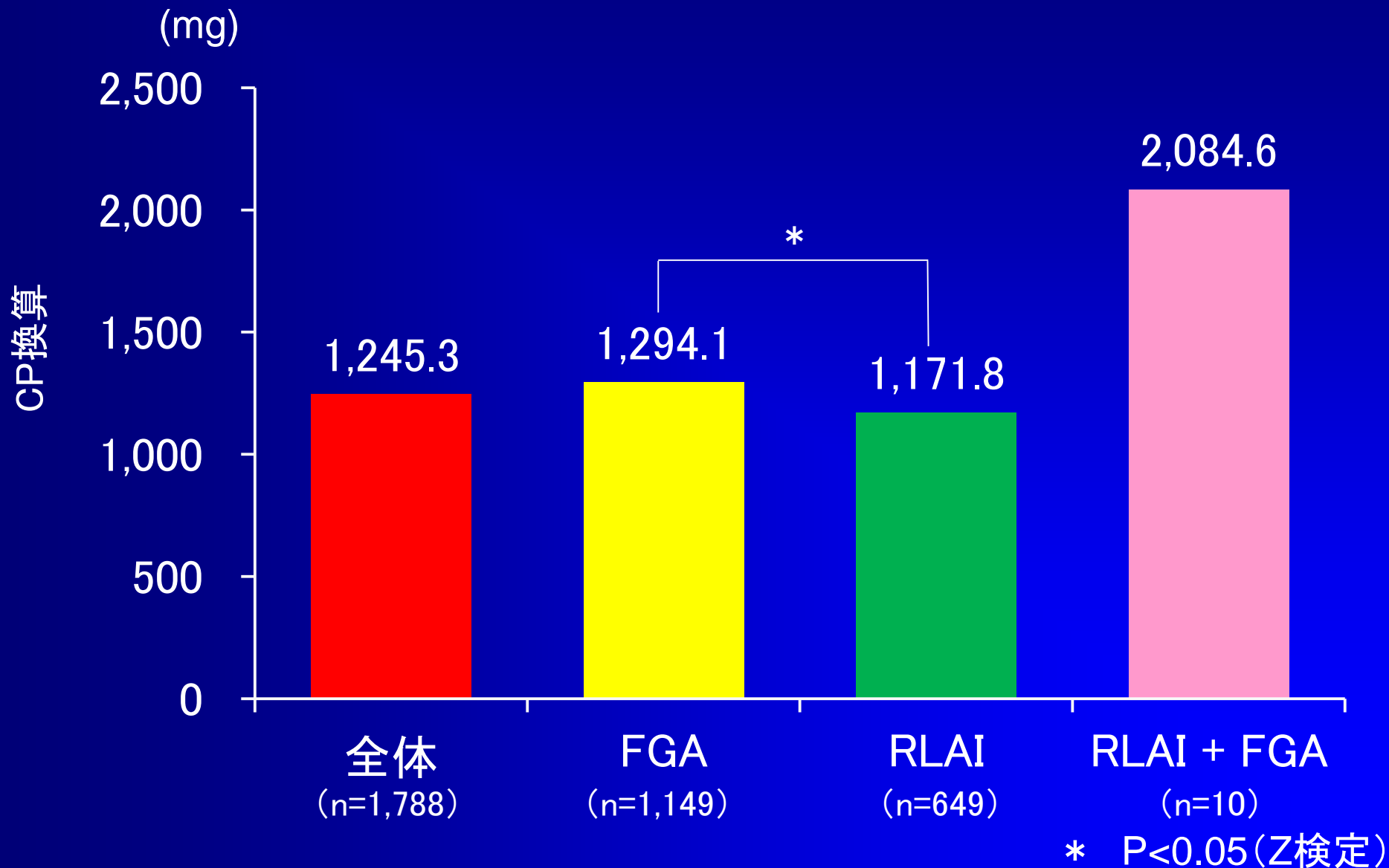
n=20,913



デポ剤処方内訳



デポ剤使用患者の抗精神病薬投与量

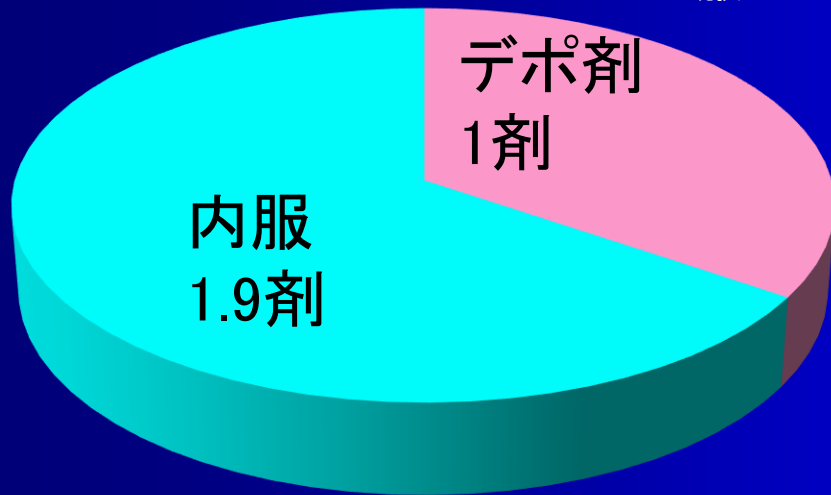


デポ剤使用患者の抗精神病薬投与 剤数および投与量 (CP換算)

n=1,788

平均投与剤数2.9剤

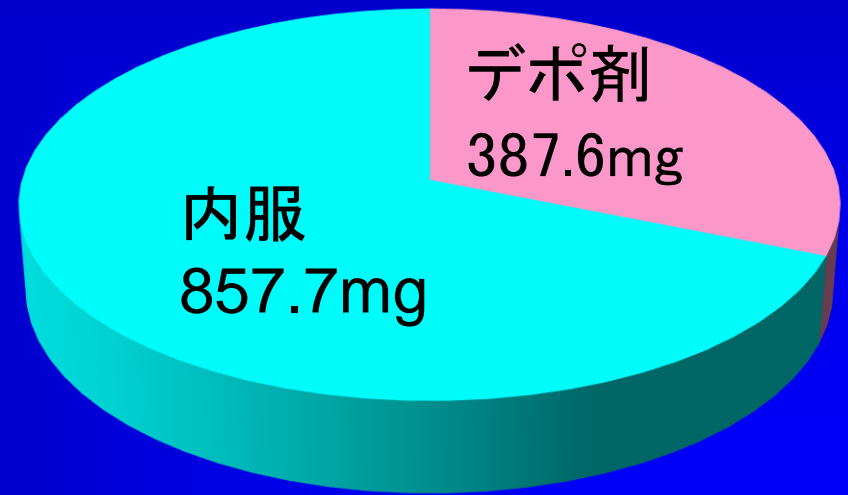
■ デポ剤
■ 内服



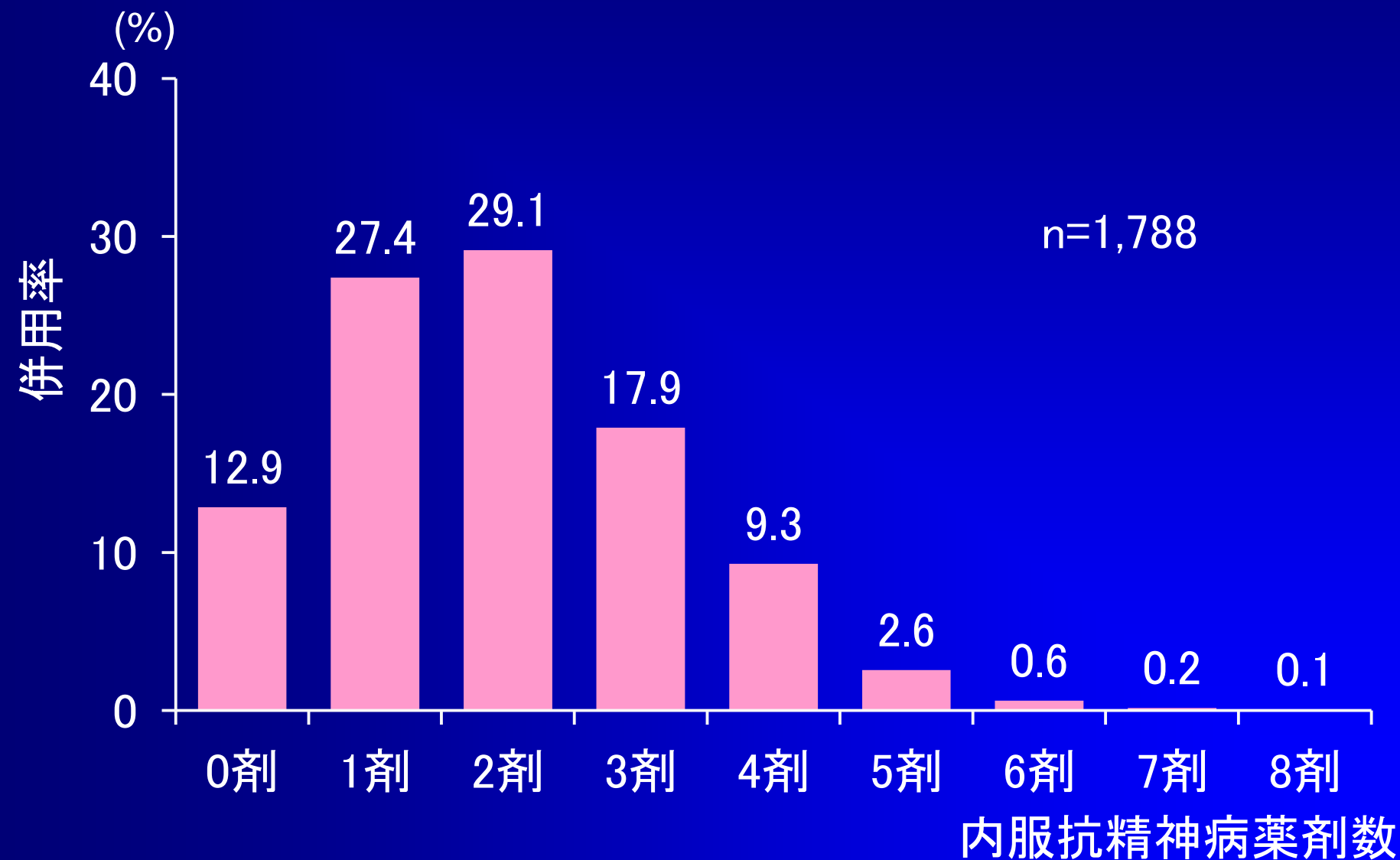
平均投与量 (CP換算)

1,245.3mg

■ デポ剤
■ 内服



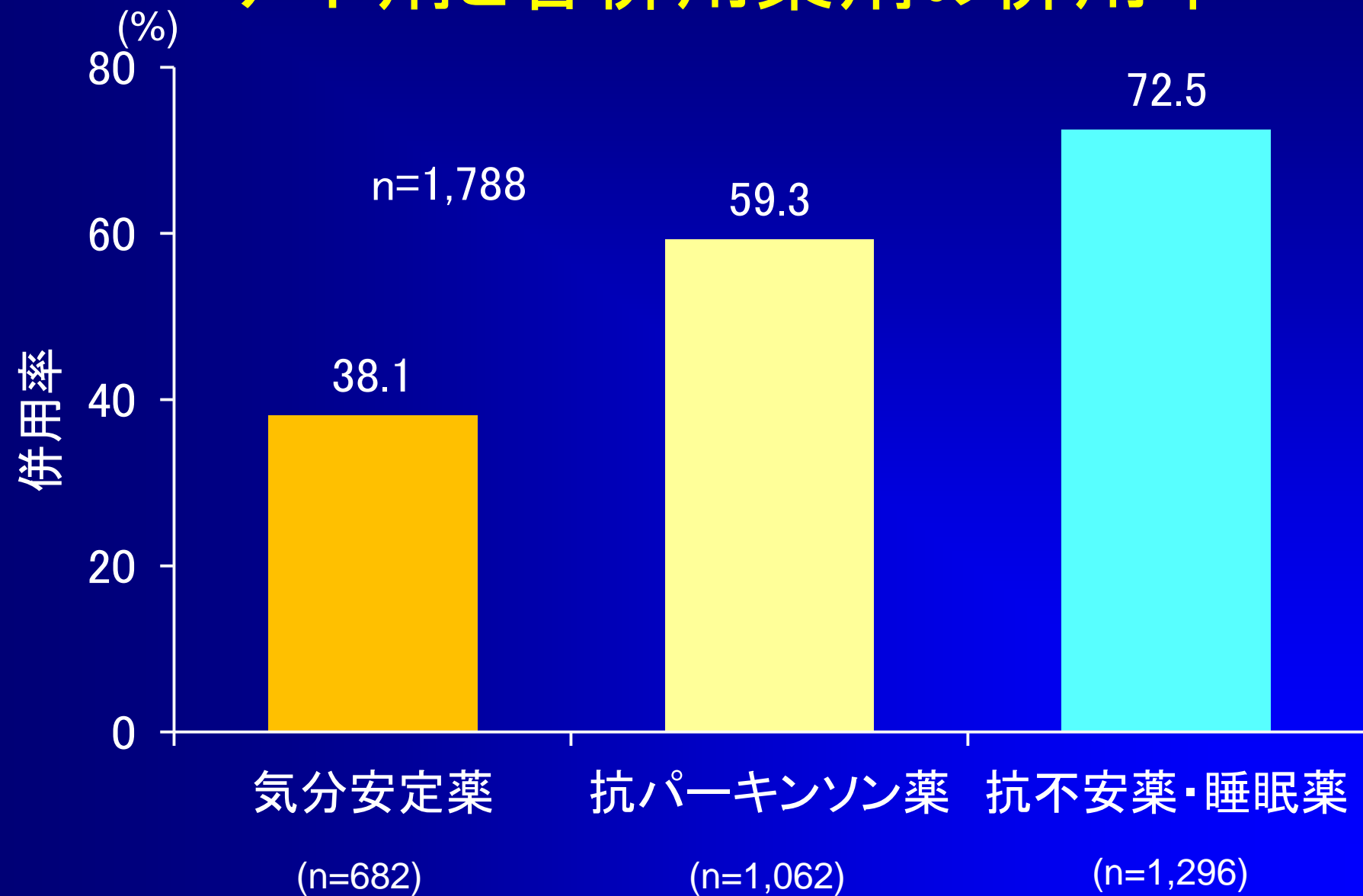
内服抗精神病薬剤数別の併用率



内服抗精神病薬剤数別の投与量



デポ剤と各併用薬剤の併用率



デポ剤と各併用薬剤の併用状況

患者群	抗パーキンソン薬			抗不安薬・睡眠薬			気分安定薬	
	併用率 (%)	剤数 (剤)	BP換算 (mg)	併用率 (%)	剤数 (剤)	DAP換算 (mg)	併用率 (%)	剤数 (剤)
全体 (n=1788)	59.3	0.7	2.1	72.5	1.3	14.3	38.1	0.5
FGA (n=1149)	64.4	0.8	2.1	72.4	1.3	14.3	37.8	0.5
RLAI (n=649)	50.2	0.6	1.6	72.4	1.3	14.1	38.7	0.5
RLAI単剤 (n=102)	28.2*	0.3	1.0 [†]	56.9	0.9	8.3	19.6	0.2

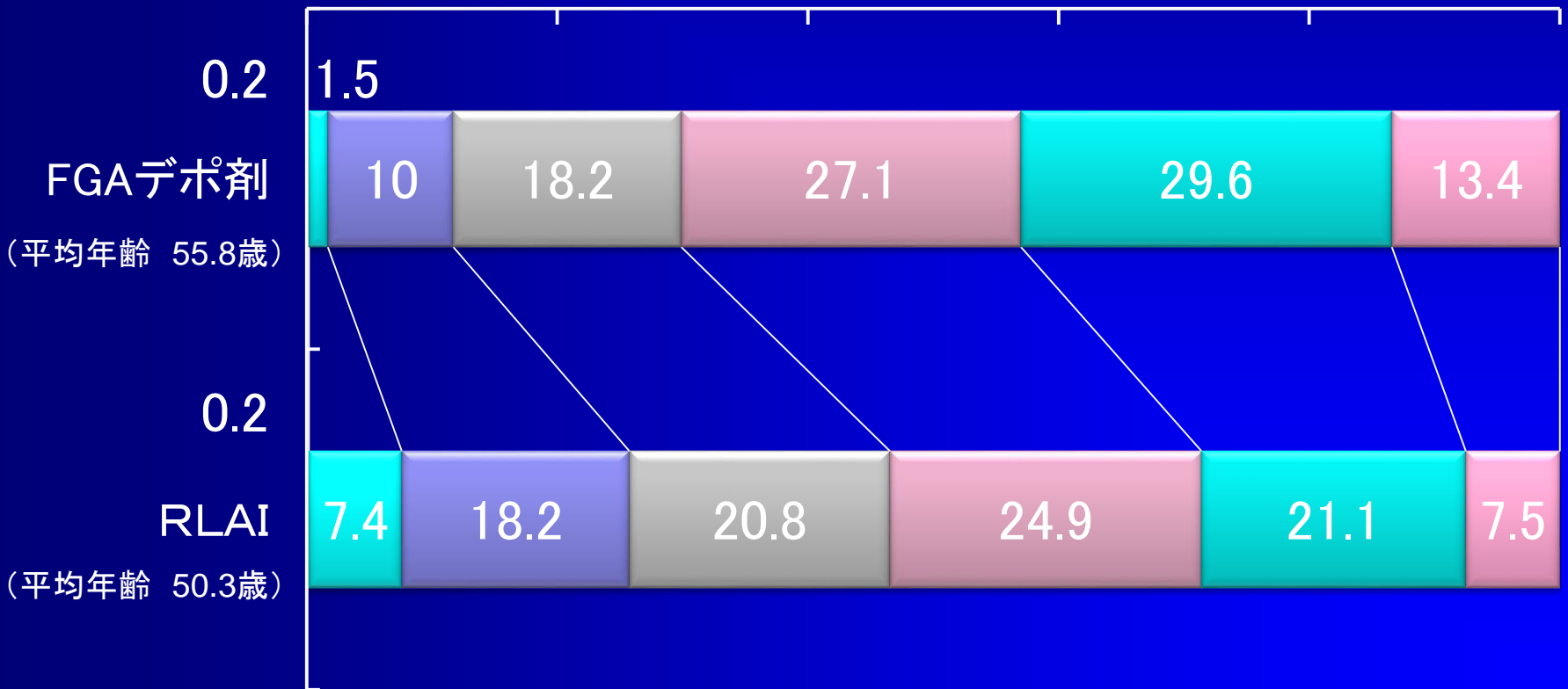
* P<0.05 対抗パーキンソン薬併用率

† P<0.05 対RLAI vs RLAI単剤

デポ剤の年代別使用割合

■ 10代 ■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60代 ■ 70代以上

0% 20% 40% 60% 80% 100%



まとめ

1. 抗精神病薬処方患者におけるデポ剤の処方率は8.5%、そのうち単剤での処方率は12.5%であった。
2. デポ剤の処方率は、抗精神病薬投与剤数の増加に伴って増加していた。
3. デポ剤を使用している患者の抗精神病薬の1日平均投与剤数・投与量（CP換算）は、2.9剤 1,245.3mgであり、内訳はデポ剤 1.0剤 387.6mg 内服 1.9剤 857.7mgであった。また、抗精神病薬投与量はFGAよりもSGA（RLAI）の方が少なかった。
4. デポ剤と内服抗精神病薬との併用は2剤が最も多く、1剤、3剤の順であり、併用内服薬の増加に伴って投与量も増加していた。
5. デポ剤と各併用薬剤との併用率は、抗パーキンソン薬 59.3%、抗不安薬・睡眠薬 72.5%、気分安定薬 38.1%であった。
6. デポ剤処方の内訳は、FGAデポ剤 63.7%、RLAI 35.7%であった。
7. デポ剤の年代別使用割合では、20-30代の若年者でRLAIの処方率が高かった。

考 察

今回の調査より、デポ剤は抗精神病薬処方全体の8.6%でしか処方されておらず、しかもその約83%において内服薬が併用されており、単剤での処方率は12.5%にすぎないことが明らかとなった。

この原因として、抗精神病薬投与剤数の増加に伴いデポ剤の使用割合が増加することから、治療におけるデポ剤処方の優先順位は低く、内服薬による多剤併用処方後に選択されていることが考えられる。

また、その投与量(CP換算)は、全体では 1,245.3mg と大量投与であるが、デポ剤のみでは 387.6mg であり、併用されている内服抗精神病薬により増加しているかデポ剤の投与量が不足しているものと考えられる。

各併用薬の併用状況は、抗パーキンソン薬 59.3%、抗不安・睡眠薬 72.5%、気分安定薬 38.1%であり、内服薬の場合と同様であった。世代別(FGA vs SGA)の検討から抗精神病薬投与量はFGAよりもSGA(RLAI)で有意に少なく、抗パーキンソン薬の併用率も有意に低いことから、デポ剤でもSGAのメリットが発揮されることが判明した。現在、SGAデポ剤(RLAI)の処方率はデポ剤使用者の約35%に留まっており、より積極的な使用が推奨される。

以上より、わが国におけるデポ剤の使用状況は、内服抗精神病薬からのスイッチング、QOLの向上、再発予防といった本来の目標とは異なった使用が行われている事が明らかとなった。